

# U18オール東京2016 岩手国体 活動報告

U18オール東京監督 宮崎和哉  
東京都立日比谷高校

各加盟校の皆様におかれましては、日頃よりオール東京の強化事業に御協力を頂きまして誠にありがとうございます。さて、標記の件ですが関東ブロック国体を突破し、第71回国民体育大会岩手国体をオール東京として戦ってまいりました。結果はすでに御承知の通り準優勝です。目標はあくまで日本一でしたので、選手・スタッフとも複雑な気持ちで帰京したわけですが、準優勝という一定の成果は、東京都全体の力の証であり全体で掴んだものだと思っています。各加盟校の皆様強化活動への御協力に改めて感謝申し上げます。

関係各所の御支援のもと9月28日～10月1日まで江東区夢の島のBumbスポーツ文化館にて直前合宿を行った後、国体会場である岩手県八幡平市へ移動しました。八幡平市は岩手山の麓に位置し、雄大な自然の中で競技に打ち込むことができました。以下、4試合を簡単に振り返ります。

1回戦、対石川県。選抜大会での素晴らしい戦いが印象に残る航空石川を主体としたチーム。強固なディフェンスが光る好チームでした。初戦の難しさもありPGで先制され終盤まで7-3のわずかなリード。ひりひりする展開で残り4分。敵陣ゴール前LO。これで突き放せるところで雷による60分間の中断。選手達は狭いテントの中で残り4分やるべきことの確認と、ラインアウトをひたすら練習。集中が切れることなく、再開後10秒でラインアウトモールを押し込んで勝負を決めました。負けたら終わりの呪縛から解放された一戦でした。

2回戦、対北海道。No.8のNZ出身の選手が巧みに仲間を動かす侮れない相手。オール東京は先発に都立北園の廣田を起用するなど、ディフェンス重視の布陣で臨みました。時折ラインブレイクされるも、粘りのカバーディフェンスで得点を与えず、攻めては要所でスコアし、危なげなく勝利を挙げました。全員の意思が統一された一戦となりました。

続く準決勝、対大阪府。組み合わせが決まった時から、この試合が天王山。大阪の3連覇を阻止するのは我々だと強い決意で臨みました。個が強い大阪に対し、チーム力でどれだけ対抗できるかという構図。スカウティング通り、序盤からロック青木のラインアウトの高さと勤で主導権を握りトライが生まれます。中盤のLOモールからボックスへ展開しスプリットでポイント、素早く主将のSH春野がさばいて順目のCTBラヒがゲイン、振り戻したところにNo.8橋本が走りこんでトライ。素晴らしい攻撃にチームは沸き立ちディフェンスも波に乗ります。相手を仰向けに倒すエクセレントタックルは合計7本。これまでのスタッツで最高でした。全員がタックルの雨を降らし才能集団を無失点に抑える、まさにオール東京の決意と覚悟のディフェンスの勝利でした。

決勝、奈良県。この日で国体もファイナル。日本一を掴んで東京に帰ろうと臨みましたが、決勝という独特の雰囲気やや慣れず、ミスが相次ぎ序盤に大量失点を与える決勝でした。残り40分で28点差、絶望的な点差にも選手たちはあきらめず攻めに攻めて、残り10分の土壇場で追いつきました。その後も勢いに乗り攻め続けましたが、一瞬の隙を突かれトライを許しノーサイドとなりました。たればはたくさんありますが、全国の決勝の舞台での経験の差が出たことが敗因。選手達の涙は花園での全国制覇への誓いとなりました。

最後になりますが、今国体に際し多大なるご支援を頂きました東京都体育協会様、東京都ラグビー協会様、直前合宿で合同練習をしていただいた関東学院大学様、現地でのコーディネイトをくださった盛岡大学高木様、公式宿舎いこの村岩手スタッフ様をはじめ、東京都加盟の全チームの皆様のおかげを持ちましてこのような成果をあげることができました。選手、スタッフ一同感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

ブロック国体から数えて6試合。東京国体以来、フルでオールとしてのゲームを味わうことができました。3年ぶりの優勝は果たせませんでした、大きなケガもなく無事に2016オール東京を終えることができましたことをここに報告いたします。ありがとうございました。